

シグマ研究委員会 核構造・崩壊データ専門部会  
核構造 W.G.サブグループ会合議事録

日 時 : 1978.7.24 (月) 13:30 ~ 7.25 (火) 7:30

場 所 : 東海研, 研究 2 棟

出席者 : 橋爪, 天道 (理研), 神戸 (東工大), 喜多尾 (放医研), 宮野,  
大矢 (新潟大), 田村, 松本 (原研), 寺沢 (東大)

配布資料: A = 127 の論文

議 事

1. A = 121 の経過

ENSDF リストの改訂が 6 月 10 日頃にはほぼ終了し ENSDF リストと  
NDSL IST が作成され, アドバイザー委員へ送付し, レフェリーを依頼し  
た。また ORNL へ plot, NDSL IST などの依頼も行ってあるが plot はま  
だ届いていない。

2. 次期計画の検討

1978.7 ~ 1979.7 の一年間で A = 123, 125, 127, 129 の 3 種類を評価す  
る予定で作業計画の検討を行い, 分担とスケジュールについて次の案がまと  
まった:

a) 分 担

A = 123, 125 宮野, 大矢, 田村, 松本

A = 123 は 53 年度内にまとめる。

A = 127, 129 橋爪, 天道, 神戸, 喜多尾

b) 事務局の作業

論文リスト, コピー, カードパンチ, 予備ファイル作成, 私信や  
Secondary sources についての連絡。

c) Compiler の作業

前回の NDS の通読, 論文査読, ENSDF 作成

d) W.G. サブグループ会合

6 回程度

3. 各グループによる作業手順の打合わせ

i)  $A = 123$

$^{123}\text{Ag}$ ,  $^{123}\text{Cd}$ ,  $^{123}\text{In}$ ,  $^{123}\text{Sn}$ ,  $^{123}\text{Sb}$  ... 宮野, 大矢

$^{123}\text{Te}$ ,  $^{123}\text{I}$ ,  $^{123}\text{Xe}$ ,  $^{123}\text{Cs}$  ..... 田村, 松本

論文コピーの準備

ii)  $A = 127$

$^{127}\text{Sn}$ ,  $^{127}\text{Sb}$  ..... 橋爪

$^{127}\text{Te}$  ..... 天道

$^{127}\text{Xe}$ ,  $^{127}\text{Cs}$  ..... 神戸

$^{127}\text{Ba}$ ,  $^{127}\text{La}$ ,  $^{127}\text{Ce}$ ,  $^{127}\text{In}$ ,  $^{127}\text{Cd}$  ... 喜多尾

論文収集・コピーの準備

4.  $A = 121$  の ENSDF に対する寺沢委員からのコメントを聞き, 記入方法についての検討を行った:

i)  $^{121}\text{In}$  の 638.0 keV のレベルについては (p,  $\alpha$ ) 反応の J 依存性がよいことからスピンのパリティは  $3/2^-$  の確定値を記入してよい。

ii)  $\text{C}^2\text{S}$  と  $\text{C}^2\text{S}'$  の違いについての説明

iii)  $^{121}\text{Sn}$  の deep-hole states の  $\text{C}^2\text{S}$  に間違いがある。

iv) (t,  $\alpha$ ) 反応における J-依存性はケースガイケースで変わるので注意が必要である。

v) deep-hole states は通常の場合と別のデータセットとする。